

「第1回理研男女共同参画推進大賞」は、男女共同参画推進委員会での選考の結果、下記3賞の受賞者(団体)が決定いたしました。今回は応募を遠慮された方、何が男女共同参画なのかよく分からなかった方、いろいろな方がいらしたようですが、「今回の募集が、「男女共同参画とは？」を考えるきっかけになりました。」という嬉しい声も届きました。

「男女共同参画推進大賞」：研究員会議幹事会



○推薦理由：

長年にわたって実現に向けて検討してきた「事業所内託児所」について、平成12年度から活動の一つに位置付け、その実現のための作業を開始。まず、理研内の最初の実施例として理研和光本所内に託児所を設置する計画を作成するため、アンケート調査を行い、研究者等のもっている要望を広く集め、研究員会議幹事会として、利用可能時間等の利用条件を含む具体的な仕様をまとめ上げた。これを基にして、所に働きかけ、その後約2年間に亘る粘り強い交渉を続けるとともに、既に公的機関で実施されている例の調査や請負業者との交渉までも行った結果、最初は、消極的であった所の姿勢を軟化させ、所の公式な検討の場にあげるに至った。さらに、所の担当部署である総務部との間で平成15年度における独立行政法人化を背景にしてその実現に漕ぎつけたものである。

その間、毎年度徐々にならっていく研究員幹事会のメンバーが滞ることなく、担当者間で引き継がれ、高い問題意識と達成意欲を維持し、最後は、研究者と事務部門との二人三脚で研究所として重要な施策の実現に至ったことは、健全な研究所運営の好例のひとつと考える。また、この実現は、他の独立行政法人に先立った先駆的なものであると同時に、当時は、男女共同参画に係る所の事業の唯一の例でもあった。

したがって、遅ればせではあるが、第1回の男女共同参画推進大賞に値する業績として推薦するものである。

●受賞コメント

表彰状授与の後、ご紹介いたします。

「男女共同参画推進委員長賞」

山本浩史さん

(加藤分子物性研究室・研究員)

○推薦理由：

自ら育児休業を1ヶ月間取得し、休業中の様子を記した「育児体験記」を「男女共同参画だより」に寄せるなど、理研の男性の意識改革に尽力した。「育児体験記」への反響は大きく、男女を問わず理研の全職員への意識啓発となったものと思われ、今後の男性の育児休業取得者増加や、積極的な家事育児参加が期待される。

●受賞コメント：

『今回このような賞に選んで頂き、ありがとうございました。今は「育休を取っても研究結果の出せる男」になるべく研究と育児に励んでおります。今後ともご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。』

「男女共同参画推進委員会賞」

筑波研究所女性の会・ラベンダークラブ、PSC女性研究者ネットワーク

○推薦理由：ラベンダークラブは、筑波研究所に2002年7月、PSC女性研究者ネットワークは、横浜研究所に2003年10月に発足し、積極的、自発的に女性の交流の場を設け情報交換を行うなど、職場における女性の意識向上に尽力した。今後は、男女共同参画の観点から男性も取り込んだ活動を企画していきたいとのことである。

●受賞コメント(ラベンダークラブ世話人：バイオリソースセンター 細胞材料開発室・前任技師 西條薫さん)

「第1回の栄えある賞をいただき、ありがとうございます。これからも自分たちも楽しみながら、活動を続けていきたいと思っております。」

●受賞コメント(PSC女性研究者ネットワーク：植物科学研究センター 代謝機能研究グループ 基礎代謝研究チーム・研究員 丸山 明子さん)

「私たちの活動にこのような賞をいただけることに、とても感激しています。これをきっかけに、働く女性の思いを知ってもらい、私たちのできる場所から男女ともに仕事のしやすい研究環境を作っていければ、と思っております。」